

体の傷と心の傷

期末考査も終わり、ホッと一息していることと思います。早いものでいよいよ7月を迎えました。あと2週間で夏休みというところまで来ました。

7月7日は七夕です。短冊に願い事を書いて笹竹などにつるしたことがある人がたくさんいると思います。以前勤務していた学校で、七夕飾りをしているクラスを見つけました。クラスの生徒が書いたいろいろな願い事が短冊に書かれていて、一つ一つ読ませてもらいました。思わず微笑んでしまうような言葉や感心させられてしまうような言葉もありました。そのなかに、「人の心を傷つけないような言動に心がけたい」と書いてある短冊を見つけました。この言葉をどのような思いや願いで書いてくれたのかはわかりません。ただ、すべての生徒が楽しい、充実した学校生活を送るためには、とても大切なことです。

そこで、今回は「体の傷は目に見えるけれども、心の傷は見えない」をテーマに書きたいと思います。

部活動でケガをしたり、場合によっては骨折をしてしまったりすることがあると思います。たとえば、足首を骨折してしまった生徒がいたとします。はじめは松葉杖について校内で生活をしていました。しかし、しばらくすると松葉杖を使わなくても何とか自力で歩けるようになります。そして、そのうち、また以前のように普通に歩いたり、走ったりできるようになります。このような変化は、誰が見ても回復の様子がわかります。ところが、心にできてしまった傷は、外から見てもわかりません。というよりも、ある言動が人の心に傷を負わせてしまったのかもわかりません。もしかしたら、口では「もう大丈夫。気にしないから」という言葉を聞くこともあるかもしれませんが、でも、本当に心の傷が癒えたのかどうかはわかりません。場合によっては、一生、心の傷として残ってしまうこともあるのです。心の傷については、本人以外、他の人が確認することができないのです。

その人にとっては、何気なく口にした一言かもしれません。その一言が相手を深く傷つけてしまうことがあるということをしっかり理解しておきましょう。みんなが発する一言一言、一つ一つの行動にお互い気をつければ、すべての学校からいじめや嫌な思いをする人はいなくなり、みんなが楽しい、充実した生活を送ることができるようになると思います。

最近、つばさ教室でも他の人と話をする時の言葉遣いで気になることが時々あります。心に傷がつかないように一人一人が注意していきましょう。

おいしく食べました

つばさ教室で栽培していたナスやインゲンやキュウリが順調に成長し収穫ができました。みそ汁の具にしたり、きんぴら風の炒め物にしたりして、お弁当と一緒においしくいただきました。食べ物の有難さや生命の不思議さを感じることもできました。



読書しよう

人は経験できることが限られています。読書をするのでいろいろな体験の代わりになることがあります。読書は、疑似体験を通していろいろな気づきや学びができるほか、読解力がついたり、語彙力が増したりする効果があります。また、十代でしか得られない読書体験があります。十代で感動した本が大人になっても同じように感動を与えてくれるとは限りません。今から夏休みにかけてたくさんの本を読んで、いろいろな疑似体験をして、読書を好きになってほしいと思っています。今年の小学高学年と中学生の課題図書を紹介します。つばさ教室でも読めるようにしましたので、ぜひ読んでください。

◎「ホイッパーウィル川の伝説」(中学生の部)

キャシー・アッペルト&アリスン・マギー 著 吉井知代子 訳 あすなろ書房

足の速い姉のシルヴィと石マニアの妹のジュールズは仲のよい姉妹です。そのシルヴィは奈落の淵から二度と戻らなくなってしまいます。シルヴィの願いは「速く走れるようになること」そして、ジュールズの願いは…?家族の絆を考えさせられる一冊です。

◎「月はぼくらの宇宙港」(中学生の部)

佐伯和人 著 新日本出版社

月はどんな天体か、月はどうやってできたか、月が地球にどのような影響を与えているか、そして、今、月の探査の現状や未来の月資源開発などわかりやすく解説されていて、宇宙に興味ある人は必読です。ミニ実験コーナーもあり、読みながら体験しながら楽しくいろいろなことを知ることができる一冊です。

◎「円周率の謎を追う 江戸時代の天才数学者 関孝和の挑戦」(中学生の部)

鳴海風 著 伊野孝行 絵 くもん出版

円周率が3.16だと思われていた江戸時代。関孝和は正確な円周率の値を求めただけでなく、世界的に見ても先進的な方程式を解く理論を生み出しました。武士としての役目を果たしながら平凡な一生を終えたと思われていた関孝和ですが、後の世になって驚異的な業績であると認められます。関孝和の生き方を描いた歴史小説です。

◎「ぼくたちのリアル」(小学高学年の部)

戸森しるこ 著 佐藤真紀子 絵 講談社

小学5年生の男子3人組の1学期と夏休みを描いた小説。学年一の人気者のリアル、転入生のサジ、平凡な「ぼく」アスカ。リアルの過去、友情、別れそしてそれぞれの成長。さまざまなことを考えさせられ、興味深く一気に読める本です。

◎「チキン!」(小学高学年の部)

いとうみく 著 こがしわかおり 絵 文研出版

気が弱くて弱虫の6年生の「ぼく」日色拓(ひいろたく)。間違ったことが大っ嫌いな真中さんが「ぼく」のクラスに転入してきて、「ぼく」は「チキン」と呼ばれてしまう。真中さんに巻き込まれてクラスはトラブル続き、その中でそれぞれの友情が生まれてくる。楽しく読める一冊です。

==== 7・8月の予定 ====

外国語活動

7月12日(水)、19日(水)に実施します。

体験学習

7月13日(木) 株式会社資生堂から講師を招き、衛生管理等について学びます。